

2016-4-4

アルパカの脳

河見博子

提出機関：California Animal Health and Food
Safety Laboratory

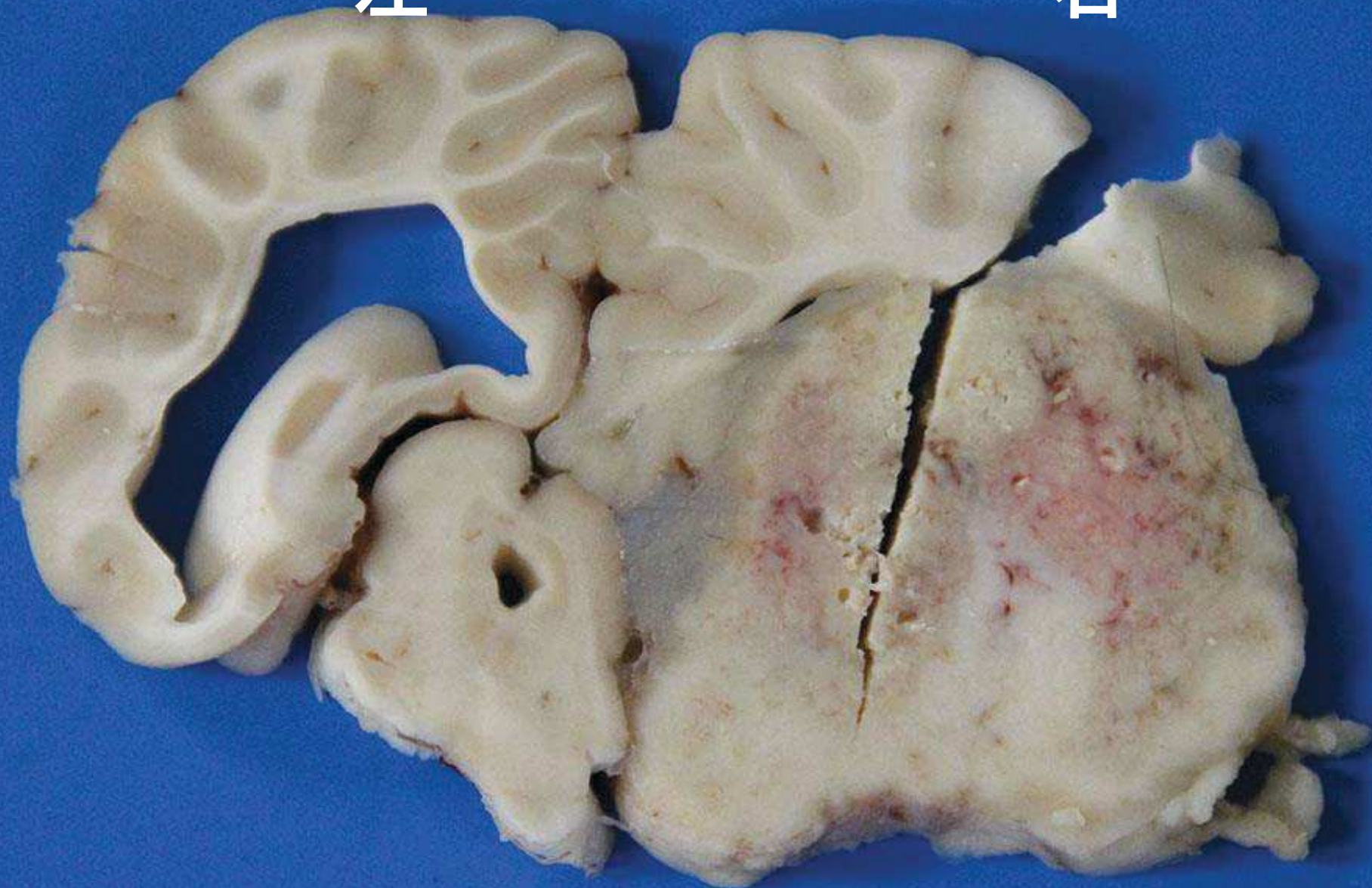
症例：アルパカ (*Vicugna pacos*)、年齢不明

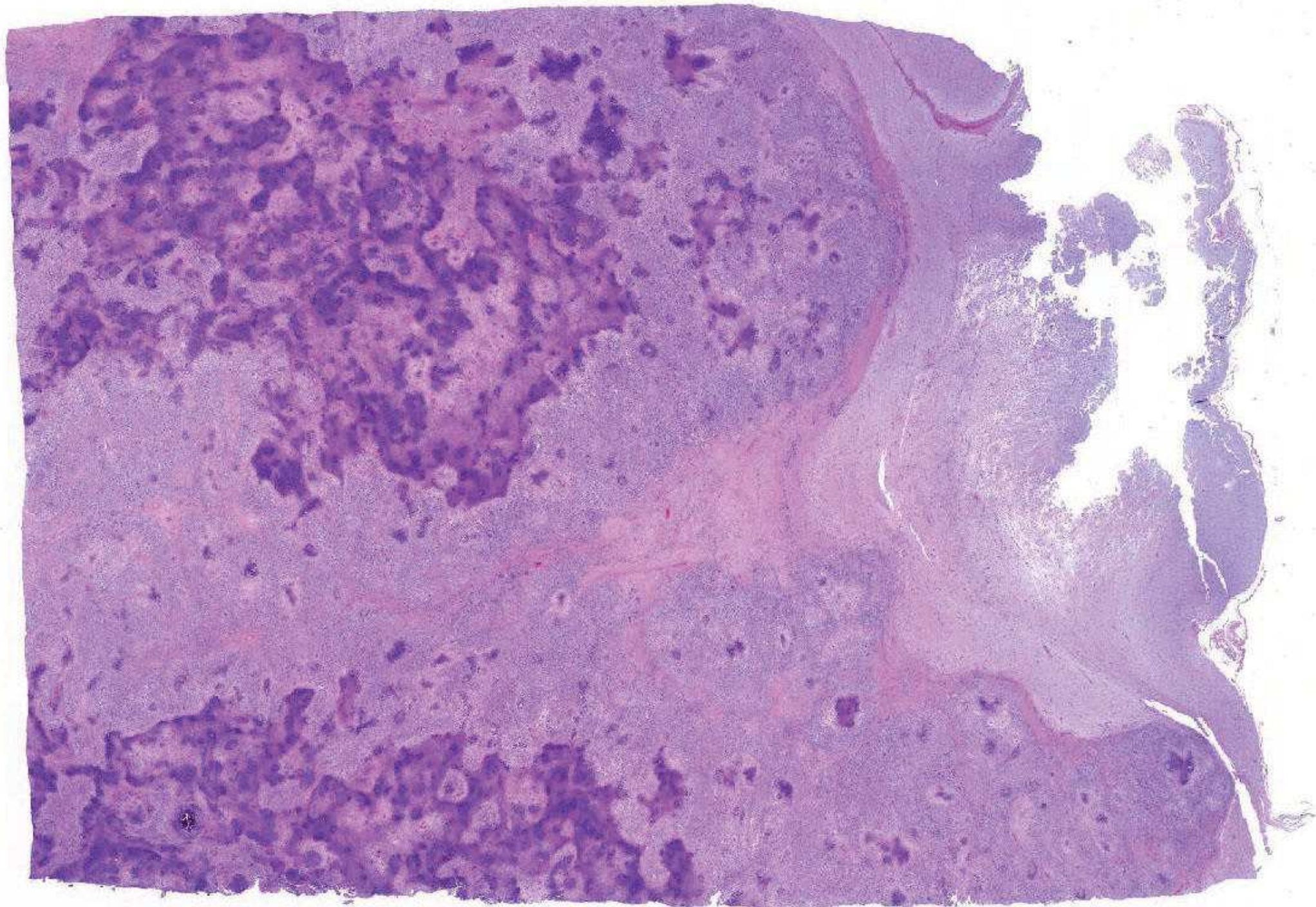
病歴：進行性の体重減少、急性左側片側性の失明、右斜頸、
右旋回
頭蓋骨の病変から頭蓋骨骨折と診断
治療に反応せず脳腫瘍を疑い、安楽殺

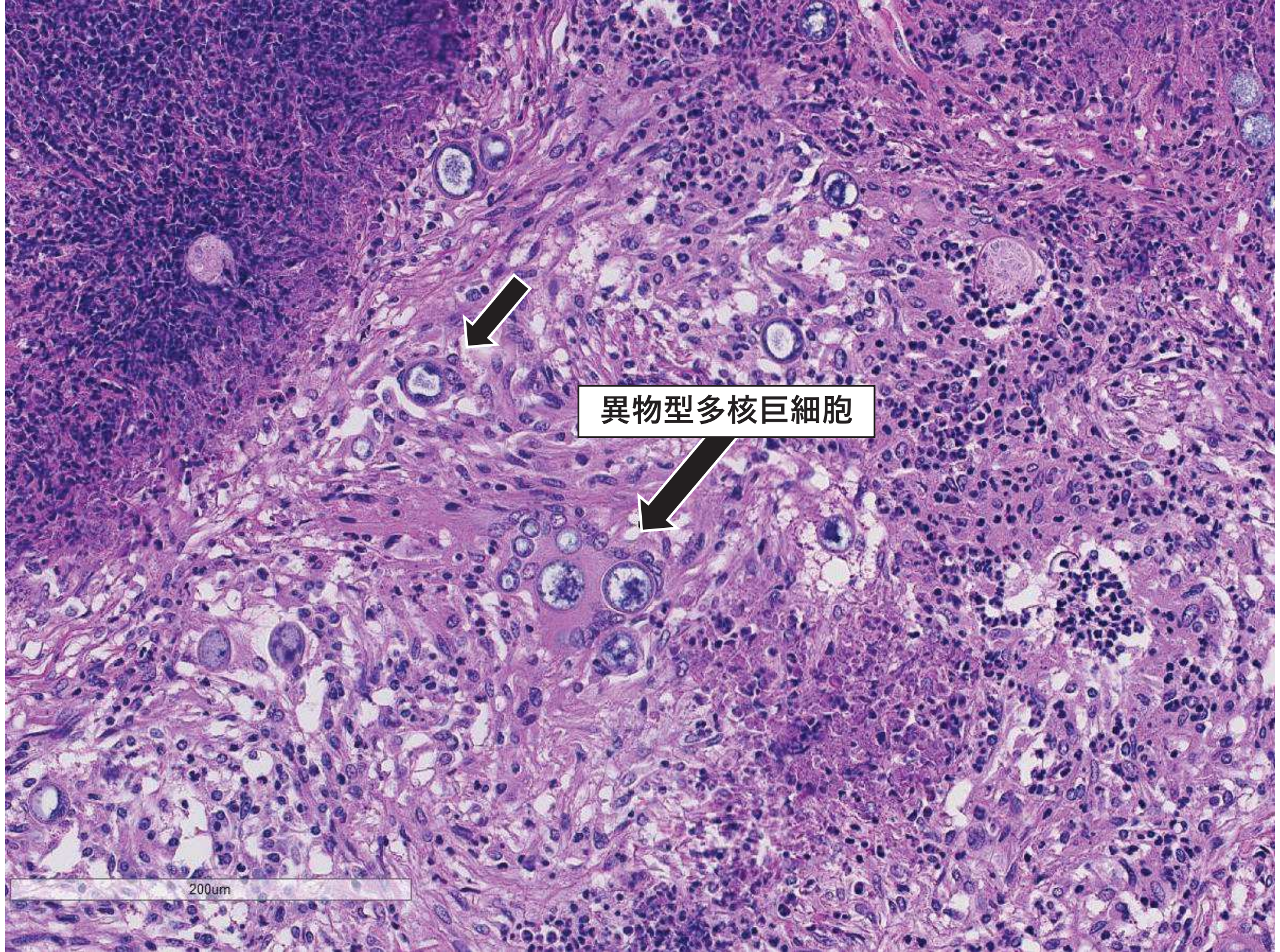
解剖所見：頭蓋冠内に多数の腫瘍形成
側脳室拡張、大脳灰白質・白質の萎縮
視交叉から大脳右半球後部まで尾側方向
に腫瘍により拡大

左

右

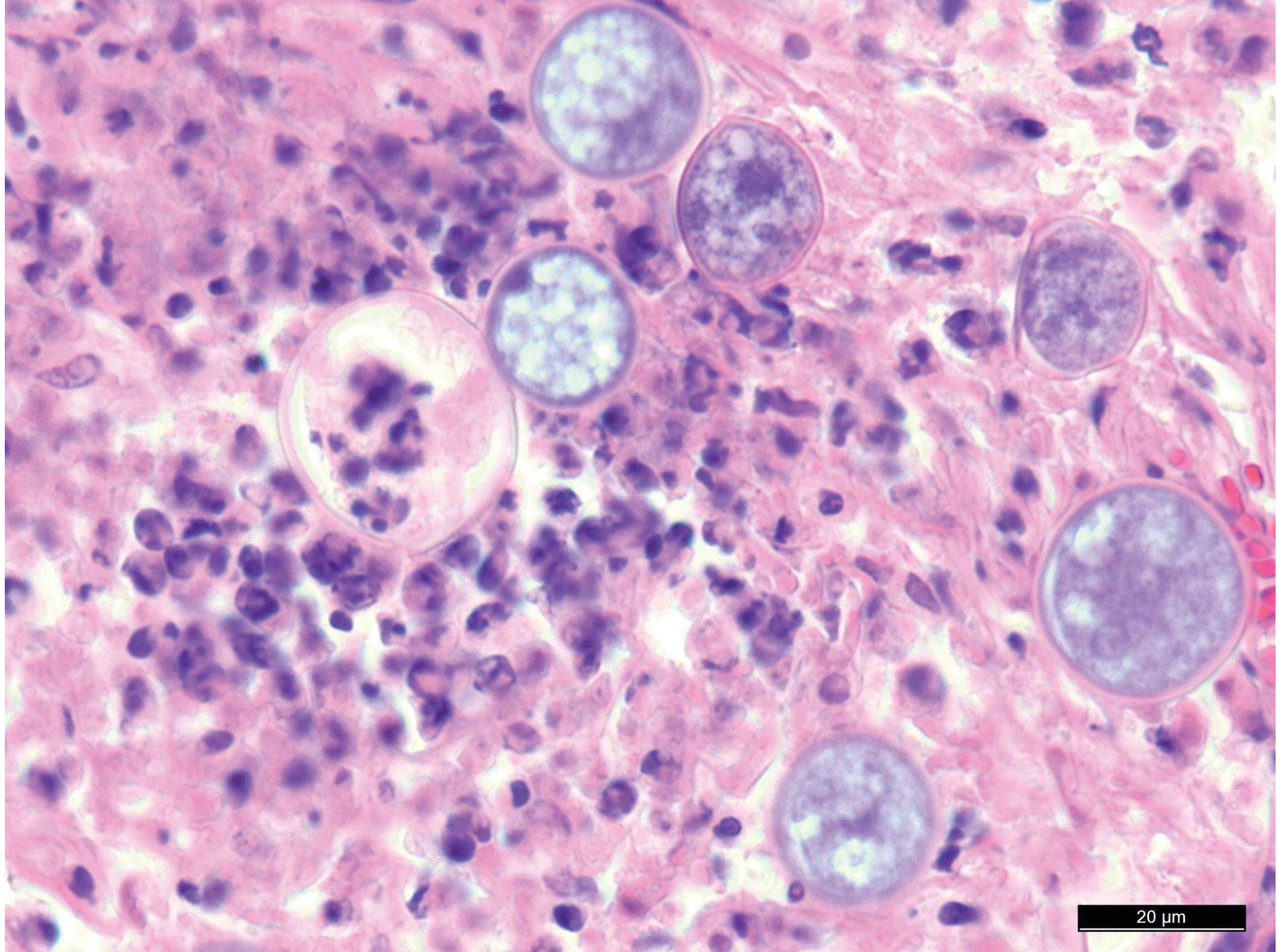




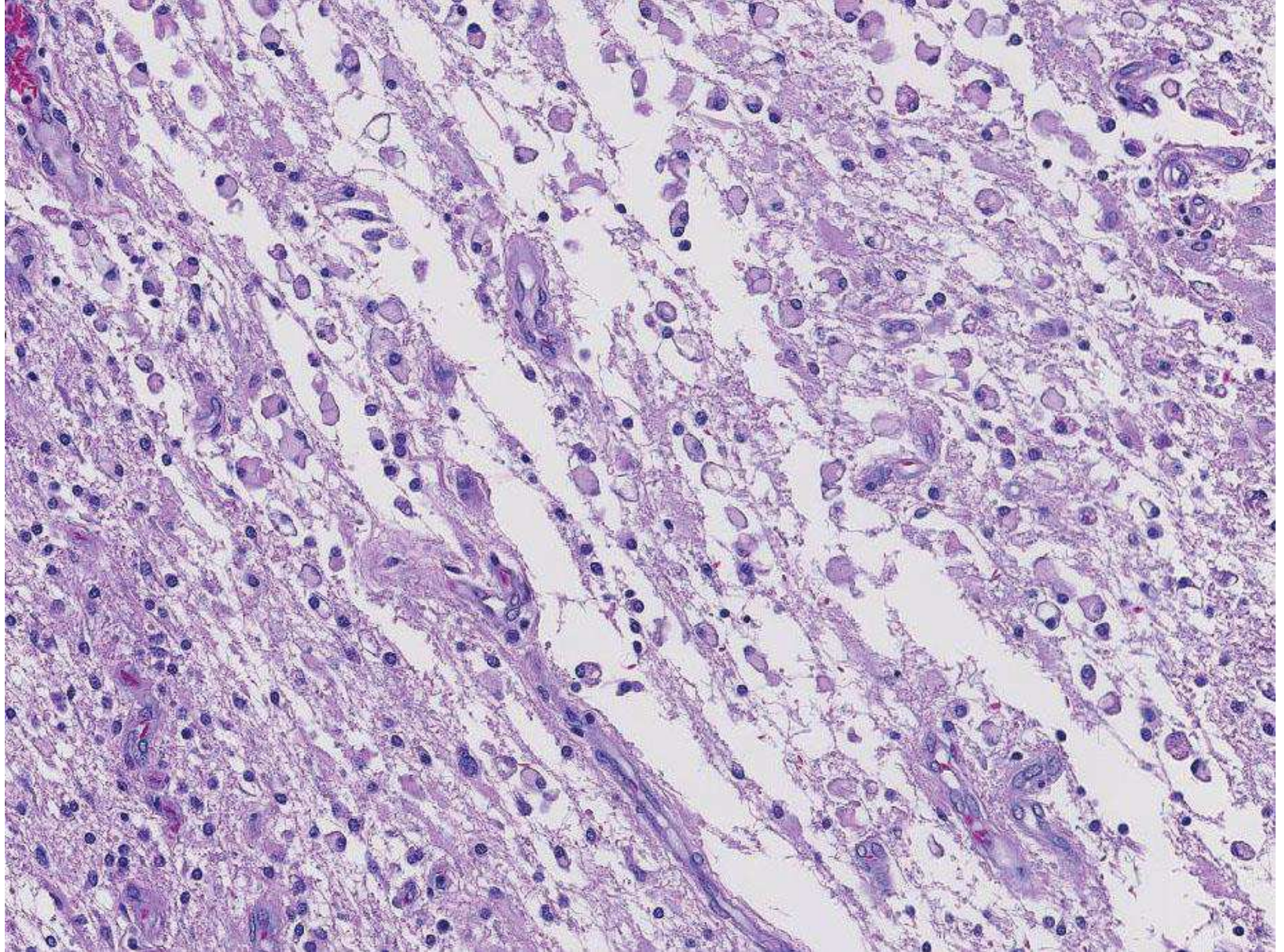


異物型多核巨細胞

200um



20 μ m





200um

マッソントリクローム染色

提出者の診断

脳、側脳室および髄膜を含む右大脳皮質：

- 1.髄膜脳炎、壊死性および化膿性肉芽腫、広範囲に及ぶ巣状の、慢性重度、多数の病巣内の真菌性球状体および内生胞子を伴う、コクシジオイデス属菌に一致する
- 2.水頭症、両側の、中等度

Brain, right cerebral cortex including the lateral ventricles and meninges:

- 1.Meningoencephalitis , necrotizing and pyogranulomatous, focally extensive, chronic severe , with numerous intralesional fungal spherules and endospores , etiology consistent with *Coccidioides* spp.
- 2.Hydrocephalus , bilateral , moderate .

JPCの診断

- 1.大脳と髄膜：髄膜脳炎、化膿性肉芽腫および壊死、広範囲に及ぶ重度な、細胞内外の内政胞子形成のある酵母、アルパカ(*Vicugna pacos*)
- 2.脳、灰白質：壊死、巣状の、中等度

1. Cerebrum and meninges : Meningoencephalitis , pyogranulomatous and necrotizing , focally extensive severe with intra- and extracellular endosporulating yeasts , alpaca (*Vicugna pacos*).
2. Cerebrum, grey matter : Necrosis , focal , moderate .

コクシジオイデス症について

- 原因菌は *C. immitis* と *C. posadassi* の 2 種類で二相性土壌菌類
- 最も病原性の強い輸入真菌感染症
- 真菌症の中で唯一、感染症法で 4 類感染症
- *C. immitis* は三種病原体に指定

播種性コクシジオイデス症について

- 慢性肺コクシジオイデス症から稀に移行
- 犬で 22% が呼吸器疾患の病歴もなく全身性に感染拡大、肺関与のない場合も
- 最も多い症状は骨髄炎による跛行

提出者のコメント

- コクシジオイデス症は、南西部アメリカ、メキシコ、中央・西アフリカの乾燥した地域特有
- 最も多い感染経路は分節型分生子の空気中の吸入
- 表皮や皮下組織の病変は、外傷と関連
- 病変部に存在する球状体からは感染しにくいですが、培養された成熟した分節型分生子からは容易に感染
- *C. immitis* はバイオセーフティーレベル3に指定される
- 強い病原性と感染性からアメリカではバイオテロの病原体に分類される

会議のコメント

◆コクシジオイデス症について

- ラマやアルパカのような南アフリカのラクダ科の動物はコクシジオイデス属感染に影響を受けやすく、呼吸器からの播種性感染が多い
- 播種性感染では骨髄炎による跛行が最も多く、肉芽腫が特徴

◆本症例について

- 化膿性肉芽腫周囲に空洞性の壊死巣が散在
- 空洞の形成は脳梗塞に特徴的で、切片で確認はできないが血栓による脳梗塞が肉芽腫形成に関与している可能性がある